

F-27 女子生徒将来志向の決定要因——母・娘関係調査の分析(第1報)——  
お茶の水女大附属高 大町 淑子

目的 母と、小・中・高校の女子児童・生徒の家族関係および家庭教育に関する現状を知るために実態調査を行なった。今回は、「将来志向における母と娘の意識の一致とズレ」が生ずる要因を探り、「家庭の雰囲気」と関連させ検討した。

方法 調査対象：全国12都道府県の小学校5年生女子児童、中学校・高等学校2年生女子生徒と、その母親のペア3,000組(有効率87%) 調査法：児童・生徒用と母親用の調査票により、児童・生徒は学校で、母親は自宅で自記 調査時期：昭和47年7月上旬より中旬 集計法：集計機による機械集計 (調査は全国家庭科教育協会において実施)

結果 1. 娘の将来志向を、職業型・再就職型・主婦型に三分すると、母は娘の方向として、職業型、再就職型を望み、娘は主婦型を希望している。  
2. 将来志向の母・娘の意識の一致は主婦型で高く、母・娘の意識のズレは、母：職業型・娘：主婦型と、母：主婦型・娘：職業型で高い。  
3. 母・娘の意識が一致していると「家庭が楽しい」割合が高いが、娘の年齢の上昇につれ、楽しい割合は低くなる。母・娘の意識がズレている場合、母：職業型・娘：主婦型より、母：主婦型・娘：職業型で「家庭が楽しい」割合がかなり低く、N・Aの割合が高い。娘の年齢の上昇にともないこの傾向は一層強く表われる。  
4. これ等により「家庭の雰囲気が楽しい」と娘が感じていることは、娘の将来志向において母・娘の意識を一致させる要因と考えられる。